

のびのび



2019年度校長室だより 第7号 令和元年11月25日

湯田小学校のキャッチフレーズ： あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

2019年度チャレンジ目標：湯田小ABC 合い言葉：やさしい言葉

中国地区学校図書館研究大会を振り返って

校長 伊藤 豊

このたびの研究大会で、本校が中国地区の参加者に発信できたことが様々あります。

1年生の授業では、児童が多くの本を手にするためのアイデアを児童の姿で示すことができました。

まず、児童の身近にたくさんの「本がある」ということです。今回も、本校の学校司書さんの協力を得て市立中央図書館等の団体貸出を利用しました。児童の目にふれる場所、手に取れる場所にいつでも「本がある」という環境設定は、とても力をもっていることが分かりました。われわれ大人でも、書店や図書館に出向くと、ついつい手に取りたくなる、あれこれ読んでみたくなる感覚と同じかもしれません。



次に、単なる本の紹介ではなく、友だちを通じて紹介してもらうという仕掛けには力があることが分かりました。今回は、「読書郵便」という、本校でも平素から用いている図書紹介の方法に加えて、お薦めの本を3ヒントクイズで紹介する方法を取り入れました。クイズに答えるのも、ヒントを出すのも仲良し同士です。おうちの方がお子様に本をプレゼントされる時と同様の力強さを発揮したように思います。今回取り扱った物語や昔話は、作者からのメッセージが込められています。それを受け取った友だち同士で紹介し合い、読み合っていく1年生の素直な姿は、参加者の胸を打ったのではないかと考えています。

4年生の授業では、児童の調べたいという知的好奇心に応えるために、調べたいことが掲載されている図書資料をたくさん準備しました。こちらも団体貸出を利用しました。ただし、研究授業までの様々な学年での事前研究で、単に図書資料の種類や量を増やしても、思考や関心が広がりすぎ、調べた内容が消化不良になる場合があることが証明されていました。



そこで、収集した図書資料を指導者が事前に吟味して用意すると共に、授業時には図書コンシェルジュとして養護教諭や栄養教諭も教室に待機しました。児童の調べたいことに対して回答を述べるのではなく、この資料を活用してみたらという助言を与えたのです。これが学習指導要領で求められる「資料活用能力」の育成です。4年生児童は、平素鍛えられてきたホワイトボードミーティングという論理的思考法を発揮して、時間内には収まりきれないほどの関連知識を調べ上げていました。今回の学習で用いた図書資料は、物語や絵本ではありません。平素はそれほど注目される図書資料ではありませんが、ひとたび児童の「必要感」に火がつくと、次々に手に取られていきました。児童の知的好奇心を呼び起こすことで、自然と幅広い読書へと

誘えることを参加者に示すことができました。

5年生の授業では、確固たる自分の考えをもった児童は、伝えたくなる（表現したくなる）という姿を示すことができました。今回は、椋 鳩十の2つの物語に登場する人物の「ものの見方」の変化を比べるという、高学年らしい思考力を要求する学習でした。児童は、学年が上がるごとに



具体から抽象、直接から間接というように、思考の仕方が大人に近づいてきます。ただ、なんとなくそう感じるからといった曖昧な理由では、学級の仲間には納得してもらえません。

そこで、物語の「ことば」、今回は、登場人物に対する呼称（呼び方）の変化に目を向けさせ、表現された「ことば」を手がかりとして、児童相互が意見を交わしました。2つの物語を読み進めてきた児童一人一人の考え、それを学級の仲間に伝え、理解を求める児童の姿。多くの児童が物怖じすることなく、進んで発言を繰り返す5年生の姿は、参加者にも驚きを与えました。

しかも、一人一人が2つの物語を読み込んでおり、自分の考えにこだわりをもって授業に臨むことができました。2つの物語を同時に読み進める（並行読書）ことは簡単ではありませんが、表現を「比べる」という思考法が、高学年の児童にとっては有効であることが明らかにできたように思います。ちなみに、これ以外にも椋 鳩十の物語を団体貸出で数多く児童の近くに置くという環境設定をしていますので、今度は、作者のものの見方に関心をもって多くの物語を読み進めていくものと期待しています。

授業以外にも、本校から発信したことがいくつかあります。一つ目は、壁面レリーフに関する書籍の紹介です。読み聞かせボランティア「お話玉手箱」のメンバーからアイデアをいただき、壁面レリーフに沿った内容の本（湯田小学校図書室所蔵）を図書委員会児童が紹介するコーナーを設置しました。現在、4年生教室近くに『おやゆび姫』のレリーフがあります。そこには、アンデルセン作の物語が数種類紹介されています。また、5年生教室近くには、大きなキツネ面のレリーフがあります。そこには、キツネが登場する物語が展示してあります。キツネが登場する物語は意外に多いことにも気付かされます。ユニークな壁面レリーフは校内の他の場所にもたくさんあり、やがては、全てのレリーフの近くに関連図書が設置・紹介されると、さらに楽しい雰囲気になりそうです。



二つ目は、図書給食です。これまでも、給食献立表で毎月紹介してきました。現在、その時出された実際の給食の写真と共に本の紹介コーナーを設けています。



児童が目にする場所に、さりげなく、しかし意図的に図書資料を配置することで、読書への関心や知識を高めていく試みは、今後もかたちを工夫しながら継続していきたいと考えています。これは、ご家庭でも実行可能です。児童が帰宅した時、学習机に一冊本が置いてあれば、きっと手に取るものと思います。今回、湯田小学校が中国地区の小学校に発信した数々が、学校や教員によって工夫・改良が行われ、よりよい

取組になっていくことを願っています。

以上簡単ですが、中国地区学校図書館研究大会の様子をお伝えしました。